

女子学生における食生活調査(2)

—箸の持ち方について—

大久保 洋子

I はじめに

我が国での食事における作法は「本膳料理」における礼儀作法を基本とし、箸を使う前提で発達してきたものである。その箸の歴史は古く、紀元前18世紀より紀元前11世紀まで、黄河流域で栄えた殷王朝の遺跡から木の柄をつけた銅箸六本（三双）が出土し、祭祀に使われたといわれている。しかし、箸という字が使われるのは戦国時代（紀元前403～221）になってからで、中国においては紀元前3世紀には、箸が日常使われるようになり、箸使いのマナーを記した書物も残されている¹⁾。日本では3～7世紀に定着したと考えられており、日本独自の箸の形・使用法・持ち方などが発達し、お椀の舟に箸の櫂で京に上り、活躍する一寸法師の昔話なども出現する位、日常化していたのである。

また、日本料理として茶懐石料理の確立と相まって、その供食方法や作法などを記した料理書が15世紀以降になるとあらわれ、箸の扱い方も詳しく記されている⁵⁾。

幼児が箸をきちんと持てるようになるのは3才頃といわれ、厚生省・保育所保育指針は2, 3才児に食事は箸を使ってするように示している。人は生後5ヵ月で5本の指で物をつかみ、大脳の手の運動野の神経細胞の樹状突起が伸びて、機能の成長と平行して指の動かし方も発達していく。従ってこの期間に正しく箸を持つことを学習することが必要になる。昨今、洋風化に伴い、種々の伝統文化が

消滅していく中で、食事のマナーも混乱し、箸使いも厳しく躰られず、幼児に教える立場の両親が正しく持てない現状が見られる。

そこで昨年に引き続き、母親予備軍としての女子短大生を対象に箸の持ち方について調査を行ったのでその結果を報告する。

II 方法

- 1) 調査対象は女子短期大学生（18～20才）159名。男子大学生（19～21才）37名。
- 2) 調査時期は1990年4月に女子学生の箸の持ち方の写真撮影。1990年6月にアンケート調査。1990年7月に男子学生の箸の持ち方の写真撮影。
- 3) 調査内容

a) 写真撮影

箸の長さ23.7cm。持ち手部分直径0.6cm。先の部分直径0.4cmの利休箸を用いた。4.6×2.7×1.6の乾麩。重量5.0gをはさんで胸の位置まで持ち上げてもどす作業の中で10～20cm上がったところを写真撮影した。

b) アンケート

調査項目

- 1) 食事に対する意識
- 2) 料理を作ることが好きか
- 3) 箸使いが上手か
- 4) 他人の箸使いが気になる
- 5) 骨付き魚を上手に食べられる
- 6) 箸の持ち方を注意されたことがある
- 7) 箸の持ち方は正しいほうがよいか
- 8) 自分の箸が決まっているか

- 9) 箸のマナーについて
10) 将来の箸について

と思われるので、減少傾向を経時的に見る必要がある。Ⅲ型の増加は望ましくないので矯正法を研究し、女子学生のⅢ型を少しでも減らす努力をしたい。うす焼卵のテストを行っ

表1 アンケート内容

次のアンケートにお答え下さい。(男性・女性) _____ 歳

- あなたはお箸を上手に使うことができますか。
①とても上手 ②上手 ③ふつう ④余りうまくない ⑤うまくない
- 他の人の箸の持ち方が気になりますか。
①気になる ②時々気になる ③気にならない
- 家での食事のとき自分の箸は決まっていますか。
①決まっている ②決まっていない
(1)①の方にお聞きます。
(a)材質は何ですか。①木 ②竹 ③プラスチック ④その他()
(b)長さについてはいかがですか。①長すぎる ②ちょうど良い ③短い
(c)食事のときに取り箸を出していますか。①出す ②出さない
(d)自分専用の箸をなん組持っていますか。()組
(例えば普段用, 特別な時用, 弁当用など)
(e)自分の箸を他の家族に使われるとどう思いますか。
①とてもいや ②少しいや ③何とも思わない
- お箸の持ち方は正しいほうが良いと思いますか。
①良いと思う ②正しくなくても食べられれば良い
①につけた方は理由を簡単に書いて下さい。
()
- あなたは料理を作ることが好きですか。
①大好き ②好き ③ふつう ④嫌い ⑤大嫌い
- あなたは骨付きの魚を上手に食べることができますか。
①きれいに食べられる ②普通に食べられる ③きれいに食べられない
- 将来お箸は使われなくなると思いませんか。
①使われなくなる ②少数の人だけになる ③使われる
理由を簡単に書いてください。()
- あなたの家族のなかでお箸の持ち方の良くない人がいますか。
①いない ②いる(どなたですか) ()
- あなたは食事をとる事が好きですか。
①大好き ②好き ③ふつう ④嫌い ⑤大嫌い
- あなたはお箸の持ち方を注意されたことがありますか。
①ある ②ない
①と答えた方にお聞きます。
(1)いつ頃注意されましたか。①子どもの頃 ②中学生 ③高校生 ④現在
(2)どんなことを注意されましたか来ただけ詳しく書いて下さい。
- お箸のマナーについてはいけないと注意されたことを列挙して下さい。

た際159名中、フライ返しやターナーなど箸以外の補助器具がないと出来ないものが4%を占めた。この4%の学生に対して今後追跡調査を行う予定である。坂田³⁾の報告は比較的環境として伝統文化に囲まれていると考えられる京都の調査で、I型46%となっている。この年代の日本人女子にみられる傾向とみてよいのではないかとと思われる。

男子学生37名について、同様の調査を行ったところ、I型9名(24%)、II型13名(35%)、III型15名(41%)となり、対象人数が少

Ⅲ 結果および考察

1) 箸の持ち方について

前報²⁾に従って4.6cm幅のものをはさむには先を開いて、箸先にきちんと力が入らなければ持ち上げることは出来ない。I型は一連の動作を無駄なく行なうことが出来る。II, III型は、途中で落としたり、手首や肘などに余分な力を必要とし、姿勢が不自然となる。分類結果を図1に示した。前報と比較するとI, II型がわづかではあるが減少し、III型が増加傾向にある。しかし、I, II型をあわせると80%となり、II型は比較的I型に移行出来る

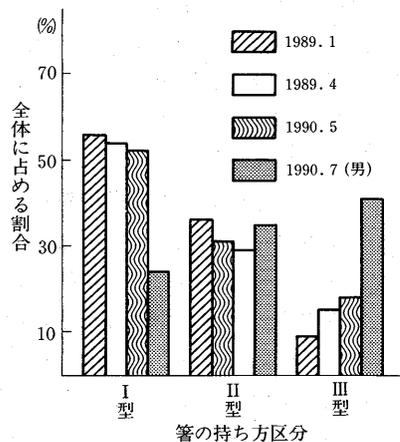


図1 箸の持ち方

ないが、男子学生は女子学生よりⅢ型に約倍の割合を示した。男子学生の報文は見あたらないので今後の課題としたい。

2) アンケート調査について

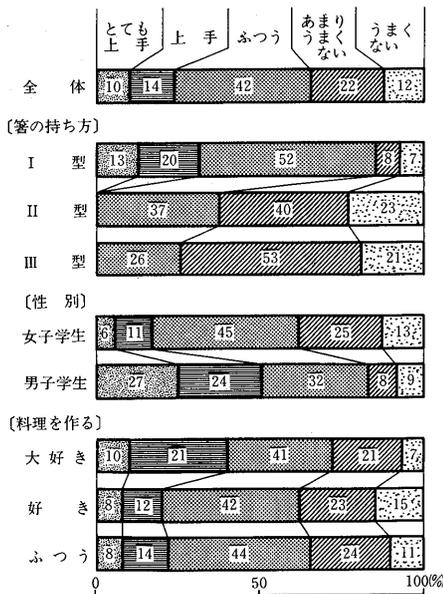
a. 「箸を上手に使うことができる」について

各アイテム、カテゴリ毎に組合わせたクロス表から χ^2 検定を行ない、そのうちの6項目について検討し、表2に示した。「箸を上手に使うことができる」に対して、1%および5%以下の危険率で有意差を示したアイテムは5項目であった。

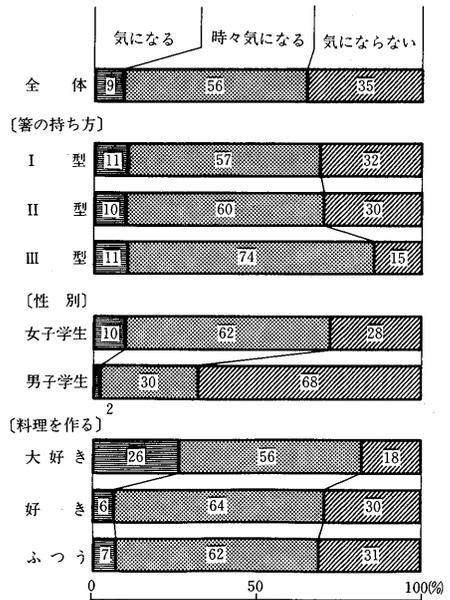
表一2 χ^2 値

	1	2	3	4	5	6
性別	性 別	箸 を 上 手 に 使 え る か	他 人 の 箸 が 気 に な る か	料 理 を 作 る こ と が 好 き か	骨 つ き 魚 を 上 手 に 食 べ ら れ る か	箸 の 持 ち 方 は 正 し い 方 が よ い か
1	性別					
2	箸を上手に使えるか	** 23.49				
3	他人の箸が気になるか	** 20.33	* 20.07			
4	料理を作ることが好きか	** 25.80	* 30.31	* 17.44		
5	骨つき魚を上手に食べられるか		** 24.12		** 35.12	
6	箸の持ち方は正しい方がよいか	** 39.41	** 24.13	** 27.14	** 20.06	

** P<0.01 * P<0.05

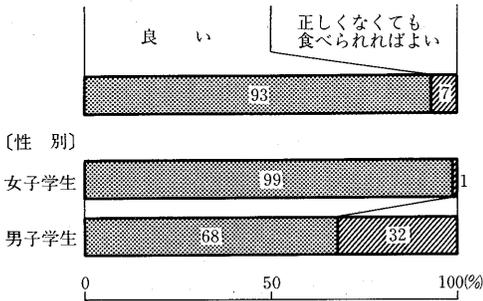


図一2 箸を上手に使えるか

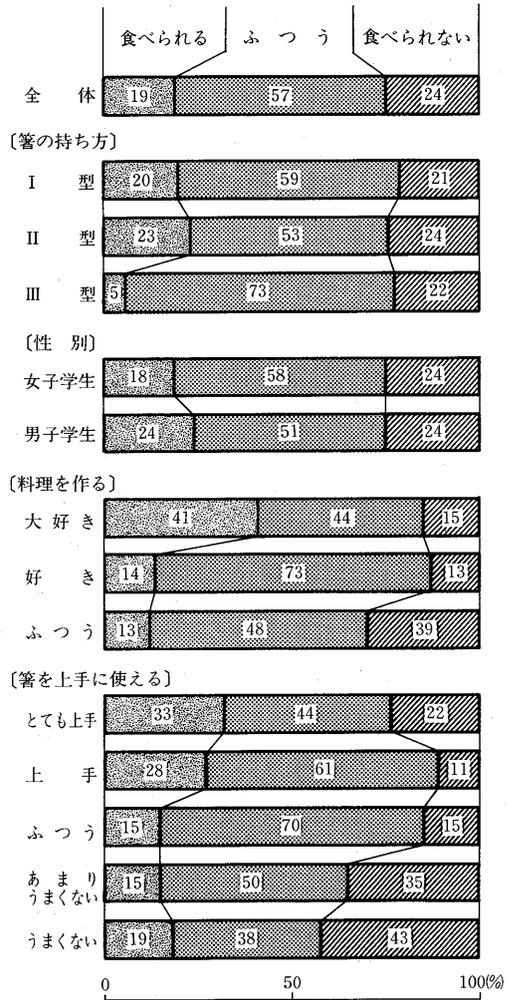


図一3 他人の箸が気になるか

性別についてみると図2で表される。意識としてうまくないと思っているものは、女子学生で38%，男子学生17%であった。写真判定ではⅢ型は女子学生18%，男子学生41%であり，意識と実態にかなりの食い違いが見られた。質問項目文が「上手」であり「正しい」ではなかったため，判断があいまいになったことも考えられる。「とても上手」と「上手」を合計すると男子学生は51%と約半数を示し，女子学生は17%と低い値を示した。これは男子学生は自分の持ち方が正しくなくても上手であると思っている率が高いことになり，何らかの方法で正しい持ち方を知る機会があればなおす意識が出る可能性がある。女子学生はうまくないと意識しながら，なおせないと考えているものが多いのではないかと



図一4 箸の持ち方は正しいほうがよいと思われる。「他人の箸の使い方が気になるか」(図3)「箸の持ち方は正しいほうがよいか」(図4)についても女子学生の方が関心をよせている。男子学生のⅢ型が高い値を示しているのは箸の持ち方について感心度が低いことも要因になっていると考えられる。「骨つき魚を上手に食べられるか」(図5)についてみると「食べられる」男子学生24%，女子学生18%と男子学生の方が高い値を示した。「箸を上手に使えるか」と合わせて考えると(図5)箸を上手に使えるという判断基準のひとつに「魚をきれいに食べられる」という要素が入っていると思われる。骨つき魚を食べるには、「はさむ」「箸先でさばく」「骨から身を



図一5 骨つき魚を上手に食べられるかはなす」「骨をはずす」など多くの機能が要求される。この作業は箸先を大きく広げてはさみ移動することはないので，Ⅱ型でも学習次第で可能となるため，「食べられる」23%という数値になったと考えられる。(図5)「箸を上手に使える」と「骨つき魚を上手に食べる」2項目間では上手と考えているものほど「食べられる」の値が高い。女子学生の方に「箸を正しく持つことが出来るか」という設問を行った結果，「正しく持てる」67%，「正しく持てない」33%となり，写真判定と

比較すると次のようになった。

I型「正しい」45%、「正しくない」6%

II型「正しい」12%、「正しくない」18%

III型「正しい」4%、「正しくない」15%

意識と判定の一致の割合を正当率として表わすと、I型88%、III型79%となり、かなり高い割合で把握している。II型は60%と他と比較して低く、約半数は正しいと自覚している。

しかし、全体で39%は自分の持ち方を正しくないと考えているにもかかわらず、なおらない原因はどこにあるのか探る必要がある。

b. 「箸の持ち方について注意されたか」

前報²⁾と比較すると、注意されたことのないもの、18%→37%、子供の頃注意されたもの60%→49%、今も注意されている22%→14%となった。注意されないことが正しい持ち方をしているためで、現在も注意されるものの数値が減少しているのは、正しく持てるものが増加していると判断したいところであるが実態は逆の傾向を示している。このことは箸のあげおろしや供食マナーの学習の場が家庭ではなく、教育機関で取り上げられねばならない必然性を示している。ところが家庭での範疇とすべき考え方が根強いため、18~20才でも正しく持てない学生が多いということになる。坂田³⁾によると「学校で箸の持ち方を教えられたか」は10.3%であると報告している。また、なおしたいという気持はあるが積

極的でない。しかしI型より関心は高いと記している。

「箸の持ち方」と「注意されたか」の関係を図6に示した。III型は79%が注意されながら持てない理由を分析する必要がある。

c. 箸の使い方について

箸の使い方について注意されたことを表4に示した。約30種にも達し、供食中の箸使いのマナーはかなり浸透していると思われる。

無記入または言われたことがないものは全体の14%であり、最高7項目をあげ、1~3項目あげたものが72%を占めた。

きらい箸については昨年より多数記入されたが、迷い箸・さし箸・ひきよせ箸(よせ箸)は多くの家庭で日常注意されており、頻度が高い。また仕事からくる忌み箸として、立て箸・拝み箸・箸わたし・二人箸・違い箸も高い値を示した。また、ねぶり箸・なみだ箸など昨年見られなかった名称がわずかではあるが見られた。市原廣中氏はお箸のエチケットというわずか9行の文中に11種のきらい箸をあげている⁴⁾。我が国の日常食が和洋中混濁型になり、三食とも箸を使うことが少なくなっている昨今を見ると、箸食文化を伝えていくことは多大の努力が必要となる。すなわち、橋本氏¹⁾が、日本人は「食」に限らず、外国人が最も日本人らしいと思っているところにそれほど執着しない傾向があると述べている

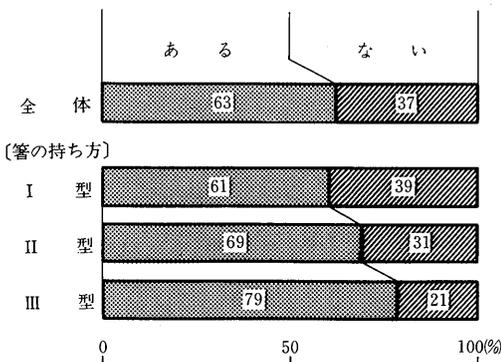


図-6 箸の持ち方を注意されたか

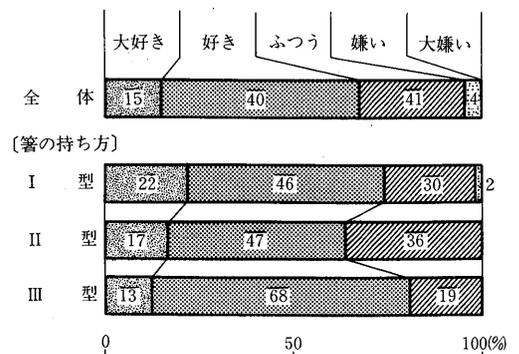


図-7 料理を作ることが好きか

が日本人の特質をふまえた上で守らなければならない文化を選択していかなければならない。

表3 箸について注意されたこと

☆きらい箸	
1 箸わたし	77
2 迷い箸	66
3 さし箸	48
4 ひきよせ箸(よせ箸)	44
5 なめ箸, くわえ箸	44
6 立て箸	42
7 さぐり箸	9
8 つつき箸, わたし箸, ねぶり箸 なみだ箸, せせり箸	
☆箸の持ち方に関するもの	10
にぎり箸, 右手でもちなさい 先をそろえる, クロスしない	
☆その他	
箸をもったまま他のことをしない	17
食器を箸でたたかない	15
一本箸で何かしない, 箸をふりまわさない 取り箸の時は反対にする 種類の違う箸を使わない おわんに箸を入れたまま飲んではいけない など	

d. 箸の持ち方とアンケート項目について

箸の持ち方 1, II, III型と調査項目について, 図5, 6, 7, 2, 3に示した。「料理を作ることが好きか」について, 「大好き」はI型が高く, III型が低い, II・III型に「嫌い」がないのに対して, I型に嫌いが見られる。「箸を上手に使えるか」については, I型は「とても上手」「上手」で43%, II, III型では「ふつう」「あまりうまくない」70~80%となっている。前述したように, かなり正当に評価しているといえる。「他人の箸が気になるか」はIII型の「時々気になる」74%と高いこのことはIII型の学生は自分と他人を比較していると思われるが, 正しい持ち方の判断があつて気にしているのか疑問である。

図8に「家族の中で持ち方の良くない人がいる」を示した。内訳を見ると女子学生は自分(13), 兄(10), 妹(10), 姉(8), 弟(7), 父(6), 母(4), 祖母(1)。男子学生は弟, 妹, 自分, 全員の順であつた。I型, II型とIII型に差が見られ, III型に環境が影響していることが考えられる。

e. 「料理を作ること」と調査項目

χ^2 検定で有意と判定された項目について図2, 図3, 図5に示した。

箸を上手に使えるから調理が好きなのか, その逆かは判断しかねるが, 道具・器具を使いこなすことは調理の上達に役立つ。相関をみると「骨つき魚を上手に食べられるか」と「料理を作ることが好きか」は単相関係数0.3347, 偏相関係数0.3435で1%有意であつた。(表5)

f. アンケート項目の単純集計

全項目の単純集計を表5に示した。記述項目をまとめると次のようになる。

○箸の持ち方は正しいほうがよいと思う理由

1 見た目・感じがよい	65	(3)
2 箸使い(つかめる とりやすい)	23	(2)
3 きれい	15	(1)
4 習慣・作法	14	(1)
5 恥ずかしくない	7	(2)
6 日本人だから	7	(5)
7 子供に正しく教える	5	(0)
8 育ちがわかる	3	(1)
9 気持ちがひきしまる	2	

()は男子学生

機能面からの理由は2番目であり, 7, 9番を除いて外観すなわち社会的機能面の理由があげられている。正しい箸の持ち方が形骸化するのではなく, 機能面から教えられることが大切と考える。

表一 4 単純集計

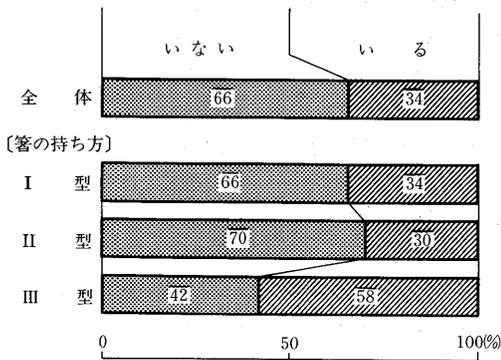
() は女子学生のみ

- | | |
|---|---|
| <p>1 <性別></p> <p>1) 女 159名</p> <p>2) 男 37名</p> <p>2 <箸を上手に使うことができるか></p> <p>1) とても上手 9.7% (5.7%)</p> <p>2) 上手 13.8% (11.3%)</p> <p>3) 普通 42.3% (44.7%)</p> <p>4) あまりうまくない 21.9% (25.2%)</p> <p>5) うまくない 12.2% (13.2%)</p> <p>3 <他人の箸の持ち方が気になるか></p> <p>1) 気になる 8.7% (10.1%)</p> <p>2) 時々気になる 55.6% (61.6%)</p> <p>3) 気にならない 35.7% (28.3%)</p> <p>4 <家での食事の時自分の箸は決まっているか></p> <p>1) 決まっている 89.3% (89.9%)</p> <p>2) 決まっていない 10.7% (10.1%)</p> <p>(1) (a)材質は何か</p> <p>1) 木 40.7% (36.3%)</p> <p>2) 竹 7.2% (7.4%)</p> <p>3) プラスチック13.2% (11.9%)</p> <p>4) その他 38.9% (44.5%)</p> <p>(b)長さ</p> <p>1) 長すぎる 2.0% (3.0%)</p> <p>2) ちょうどよい81.8% (94.8%)</p> <p>3) 短い 2.0% (2.2%)</p> <p>4) 未記入 14.8%</p> <p>(c)取り箸を出す</p> <p>1) 出す 23.2% (20.9%)</p> <p>2) 出さない 76.8% (79.1%)</p> <p>(d)自分専用の箸を何組もっているか</p> <p>1) 1組 24.7% (17.2%)</p> <p>2) 2組 57.2% (61.9%)</p> <p>3) 3組 15.1% (17.2%)</p> <p>4) 4組 3.0% (3.6%)</p> <p>(e)他人に使われるとどう思うか</p> <p>1) とてもいや 18.5% (18.4%)</p> <p>2) 少しいや 57.1% (59.6%)</p> | <p>3) 何とも思わない24.4% (22.1%)</p> <p>5 <お箸の持ち方は正しいほうが良い></p> <p>1) 良いと思う 92.9% (98.7%)</p> <p>2) 正しくなくても食べられればよい
食べら 7.1% (1.3%)</p> <p>6 <料理を作ることが好きか></p> <p>1) 大好き 14.9% (17.0%)</p> <p>2) 好き 40.0% (44.0%)</p> <p>3) ふつう 41.0% (37.7%)</p> <p>4) 嫌い 3.6% (1.3%)</p> <p>5) 大嫌い 0.5% (0.0%)</p> <p>7 <骨つき魚を上手に食べられるか></p> <p>1) きれいに食べられる 19.4% (18.2%)</p> <p>2) 普通 56.6 (57.9%)</p> <p>3) 食べられない 24.0% (23.9%)</p> <p>8 <将来お箸は使われなくなる></p> <p>1) 使われなくなる 0.0% (0.0%)</p> <p>2) 少数の人だけになる 24.6% (28.5%)</p> <p>3) 使われる 75.4% (71.5%)</p> <p>9 <家族のなかでお箸の持ち方のよくない人がいるか></p> <p>1) いない 65.6% (63.3%)</p> <p>2) いる 34.4% (36.7%)</p> <p>10 <食事をとることが好きか></p> <p>1) 大好き 46.2% (48.1%)</p> <p>2) 好き 43.6% (40.5%)</p> <p>3) ふつう 9.7% (10.8%)</p> <p>4) 嫌い 0.5% (0.6%)</p> <p>5) 大嫌い 0.0% (0.0%)</p> <p>11 <お箸の持ち方を注意されたことがあるか></p> <p>1) ある 63.0% (65.8%)</p> <p>2) ない 37.0% (34.2%)</p> <p>(a) いつ頃注意されたか</p> <p>1) 子供の頃 78.0% (77.7%)</p> <p>2) 中学生 2.4% (1.9%)</p> <p>3) 高校生 0.8% (0.0%)</p> <p>4) 現在 18.7% (20.4%)</p> |
|---|---|

表一 5 偏相関係数

	1	2	3	4	5
	箸を上手に使えるか	料理を作ることが好きか	骨つき魚を上手に食べられるか	食事をとることが好きか	箸の持ち方を注意されたか
1	1.0000				
2	0.0303	1.0000			
3	* 0.1588	* * 0.3435	1.0000		
4	* 0.1498	0.1210	0.0877	1.0000	
5	* * -0.3094	0.0359	-0.1059	0.0619	1.0000

* P<0.05 * * P>0.01



図一 8 家族の中で持ち方の良くない人がいる

「将来の箸の使われ方」について「使われなくなる」ものは一人もいなかった。少数の人だけになるが25%程となり、弁当にスプーンを持ってくる人が増えていることを指摘している。「使われる」と答えた理由の中で日本料理という言葉が使われていたものは53(17)で、箸は日本特有のものであり、日本の伝統として残ると判断している。

IV まとめ

- (1) 女子短期大学生159名、男子大学生37名、計196名について、箸の持ち方の調査を行った。正しい持ち方とされるI型は52%、また作業に不都合と思われるIII型は18%であった。
- (2) 箸に関するアンケート調査を行った結果

生活環境と考えられる家族の中に正しくない人がいると答えたグループにIII型が一番高い値を示した。

- (3) 「骨つき魚が上手に食べられるか」と「箸を上手に使えるか」、「料理を作ることが好きか」の間に有意の相関がみられた。
- (4) 箸の持ち方について注意されなかったものが昨年の18%に対して37%と約倍の値を示し、子供の頃注意されたものが60%に対して49%を示したが、I型は昨年に比較してわずかな減少を示した。今後I型の減少を示唆しているものと思われる。
- (5) 「きらい箸」については7項目あげたものを最高に1~3項目あげたものが72%を占めた。全体で約30種あげられた。
- (6) 箸をととも上手に使えると思っているものは女子学生6%、男子学生27%と男女差が高い。「とても上手」と意識しているものは「骨つき魚を上手に食べられる」「料理を作ることが大好き」で他のカテゴリーを上まわる値を示した。

<引用文献>

- 1) 橋本慶子：箸の物語 (1990)
- 2) 大久保洋子：本誌、第33集 64 (1988)
- 3) 坂田由紀子：家政学会誌41 637 (1990)
- 4) 広中廣中：洛中楽活 35 (1989)
- 5) 日本料理秘伝集成：第十八巻 同朋舎